

宮城県林業普及活動情報

2022. 8月号 No. 171

もくじ

各地の林業普及活動情報	P 2 ~ 10
○「柴田農林高等学校の演習林実習」支援	(大河原地方振興事務所)
○規格外苗木を使った加工品検討	(大河原地方振興事務所)
○仙南地域における苔栽培の指導	(大河原地方振興事務所)
○タラノメ生産現地指導	(大河原地方振興事務所)
○新たな森林管理システム・森林環境譲与税の活用に係る打合せ会	(大河原地方振興事務所)
○「森と木のおはなし」 in 「自然にふれよう (山のがっこう)」	(仙台地方振興事務所)
○原木しいたけ生産者等による打合せ会の開催	(仙台地方振興事務所)
○林業教室実地研修を開催	(仙台地方振興事務所)
○グループコンクール活動成果発表支援	(北部地方振興事務所)
○森林経営管理制度大崎圏域作業部会	(北部地方振興事務所)
○燃油等価格高騰に関する特用林産支援	(北部地方振興事務所)
○こけし材安定供給に向けた支援	(北部地方振興事務所)
○ナラ枯れ被害調査の実施	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○ドローン操作研修	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○地域木育活動の支援	(東部地方振興事務所)
○「林業教室実地研修会」の実施	(東部地方振興事務所)
○「合板用原木に関する供給調整会議」開催支援	(東部地方振興事務所)
○地域産材木製品のPR設置	(東部地方振興事務所)
○「林業教室実地研修会」の実施	(東部地方振興事務所 登米地域事務所)
○林業現場におけるICT活用の紹介及びUAV操作体験会の実施	(気仙沼地方振興事務所)
○きのこ生産者への燃油価格高騰対策支援	(気仙沼地方振興事務所)
○ハタケシメジ簡易施設栽培マニュアルの普及	(林業技術総合センター)
○緑の雇用3年目研修への支援	(林業技術総合センター)
○緑の雇用2年目研修への支援	(林業技術総合センター)

「柴田農林高等学校の演習林実習」支援

大河原地方振興事務所

【2日(火)】

柴田農林高等学校森林環境科2年生を対象として、座学では「宮城の森林・林業、林業機械等の基礎知識」について講義するとともに、実習においては、川崎町森林組合の協力を得て高性能林業機械による造材・集積の視察を行いました。また、オペレーターの指導の下、生徒全員が真剣に機械（プロセッサ）の操作実習を行った結果、森林林業及び林業機械への興味を深めるとともに現状が理解されました。



【林業機械操作体験の様子】

規格外苗木を使った加工品検討

大河原地方振興事務所

【3日(水), 5日(金), 10日(水), 31日(水)】

規格外苗木を使った加工品の商品化を検討するため、天然アロマウォーターやミニ盆栽の試作指導を行うとともに、ブランド化に向け関係者や異業種の方々と打合せを行いました。

天然アロマウォーター及びミニ盆栽について外部講師の指導を受け、加工方法を習得することが出来たほか、今後の販売に向け、産業技術総合センターの指導のもと、ブランディングについての理解を深めていただくことができました。また、役割を整理し、異業種の方々が参画した連携体制を構築するきっかけを作ることができました。

今後も、規格外苗木を使った加工品の商品化に向け、関係機関と連携し、支援を行います。



【打合せの状況】

仙南地域における苔栽培の指導

大河原地方振興事務所

【10日(水)】

川崎町の新規苔生産者に対し、先行事例を参考とした栽培方法等の助言や指導を行いました。

川崎町内の圃場で苔の試験栽培するため、圃場の整備や種まき作業について、当所職員の研修と併せ、生産者へ指導し、苔栽培への理解を深めていただくことができました。

今後も、先進地の栽培管理方法等を参考にしながら、生産者を支援します。



【指導の状況】

タラノメ生産現地指導

大河原地方振興事務所

【12日(金)】

タラノメ生産者から、タラノキの立ち枯れについて相談があったことから、大河原農業改良普及センターと合同で現地指導を行いました。

現地の状況を確認したところ、水はけが悪いことがわかったため、植栽する際の畝の高さや、土壌改良等について指導を行ったほか、マルチキャビティコンテナや竹チップを利用したタラノキ苗生産等について提案を行いました。

引き続き、関係機関と連携し、指導・助言を行います。



【指導の状況】

新たな森林管理システム・森林環境譲与税の活用に係る打合せ会

大河原地方振興事務所

【22日(月)】

仙南中央森林組合において、当該森林組合管内である、角田市、大河原町、村田町、柴田町の担当者を参集した打合せ会が行われ、森林経営管理制度の進捗状況や森林環境譲与税の活用状況及び今後の計画について、情報交換するとともに、当所からは、森林環境譲与税の積極的な活用の呼びかけと助言を行いました。

各市町の取組状況について互いに情報共有が図られるとともに、各市町が抱える課題や懸案等について情報収集することができたことから、引き続き、各市町の取組状況に応じた支援を行います。



【会議の状況】

「森と木のおはなし」 in 「自然にふれよう（山のがっこう）」

仙台地方振興事務所

【11日(木)】

山の日（8月11日）に合わせて行われた「特定非営利活動法人SCR（富谷市）」による「自然にふれよう（山のがっこう）」で、「森と木」について小学生親子32組の皆さんにお話をしました。

小学生の皆さんも①森・林と木とのかかわり②地球温暖化と木のかかわり③木が伐採されて、木造建築物に使用されるまでの話④水源涵養機能の話に、熱心に耳をかたむけてく



【「森と木」についてのお話】

れました。

原木しいたけ生産者等による打合せ会の開催

仙台地方振興事務所

【24日(水)】

管内の原木しいたけ生産者及び原木しいたけ生産者協議会の事務局である市町村担当者による打合せ会を開催し、県産原木の利用再開を目指し令和元年度から昨年度まで取り組んだ試験栽培プロジェクトの成果報告や県産原木利用再開に向けた今後の取組方針のほか、今年度の原木しいたけのPR活動の実施について打合せを行いました。

県産原木による試験栽培プロジェクトの成果について共有を図ったほか、今後の県産原木利用再開に向けた方針案についても説明を行いました。

今後も市町村との連携を図りながら、原木しいたけ生産者の活動を支援します。



【生産者等による打合せ会の様子】

林業教室実地研修を開催

仙台地方振興事務所

【25日(木)】

管内の林業教室受講生を対象に、コンパス測量、造林・間伐等に関する実地研修を行いました。

コンパス測量の原理と造林・間伐、森林病害虫の最新知識を教示し、深い理解と高い技能を得ることができました。また、教えることで自身の実践力を高めるという副産物もありました。今後も、このような実地研修を支援します。



【コンパス測量器の組立】

グループコンクール活動成果発表支援

北部地方振興事務所

【4日(木), 17日(水)】

先月(7月)に続いて、北海道・東北ブロックグループコンクールで発表する岩出山林業研究会の発表原稿完成に向けた支援を行いました。

率直に意見を出し合い加除修正を行い、原稿を完成させることができました。

設立から50年の歴史ある研究会の最近の活動成果を軸にして、地域文化の継承(窯神様の製作)とともに今後への決意等もアピールする内容となりました。

なお、発表は、新型コロナウイルスの影響



【完成原稿によるリハーサルの様子】

により、対面ではなく画像と音声を記録したデータを提供するものとなり、記録に当たっては、繰り返し練習し本番に臨みました。

森林経営管理制度大崎圏域作業部会

北部地方振興事務所

【9日(火)】

平成31年度からスタートした森林経営管理制度による森林整備が円滑に進むよう、大崎圏域作業部会を開催しました。

作業部会では、各市町の実務担当者とともに課題等について意見交換を行って、実施可能な対策等を話し合いました。

各市町共通の課題、異なる課題に対してそれぞれ支援しながら、森林整備が進むよう取組んで参ります。



【作業部会の様子】

燃油等価格高騰に関する特用林産支援

北部地方振興事務所

【18日(木)】

特用林産物であるきの子の生産に必要な資材費や燃料費等の価格が高騰していることから、燃油等価格高騰対策として新設される補助事業による支援を行うため、管内で有数の生産量を誇る、えのきたけ生産者に対して説明会を実施しました。

生産・販売状況を把握するとともに、生産者の意向を踏まえた円滑な補助事業導入支援に繋げることができました。



【説明会の様子】

こけし材安定供給に向けた支援

北部地方振興事務所

【24日(水)】

伝統鳴子こけし職人から、「こけしの材料となるミズキ材が不足している。」との相談を受け、地元森林組合である大崎森林組合が事務局となり、素材生産業者からミズキ材を受け入れる体制づくりが可能かどうか、まずは、大崎森林組合と打合せを行いました。

打合せにより了解が得られたので、今後はこけし職人の組合も交えて打合せを行うとともに、需要と供給にミスマッチが起きないように、素材生産業者とこけし職人による現地検討会の開催に向け調整を図ります。



【大崎森林組合との打合】

ナラ枯れ被害調査の実施

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【19日(金), 22日(月)】

例年9月は林野庁が定める「ナラ枯れ被害調査強化月間」となっていますが、9月になると一部地域では紅葉との判別が難しくなるため、7月下旬から毎週モニタリング調査を行った結果、8月に入りナラ枯れを確認したことから、新規被害発生も散見される栗原地域事務所管内全域において目視による被害調査を行いました。

被害調査の結果、栗駒地区、花山地区、鶯沢地区とも昨年に比べ被害量は概ね減少傾向にあると推測されましたが、隣接区域への拡大や、新たな地区(一迫地区)での発生など、被害の拡大も確認しました。このことから、栗原市との情報共有を図るとともに、引き続き監視体制を強化し必要に応じ9月に追加調査等を行うこととしたほか、初期段階での重点的な駆除・防除の実施と、大径木の若返りを図る更新伐の必要性を確認しました。



【新たに花山ダム周辺での被害を確認】

ドローン操作研修

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【24日(水)】

森林育成事業の測量及び検査については、ドローンの活用に移行しつつあることから、昨年度に続き、今年度採用された森林組合職員に対しドローンの仕組みと基礎操作について講義を行いました。

現地では、操縦説明のあと準備・離陸・撮影・着陸までの一連の流れを双方で確認しつつ1時間ほど行い複雑な動きまでできるようになりました。

操縦時間累積10時間が当面の目標にあるため、秋造林の期間に2回目の研修を実施する予定です。



【ドローン基礎講義】



【操作練習中】

地域木育活動の支援

東部地方振興事務所

【20日(土)】

東松島市の工務店が地域貢献活動の一環で開催した親子木工教室にお邪魔しました。

公募で選ばれた市内の親子10組(20人)が参加し、社屋前スペースで「丸太切り」、「くぎ打ち」、「カンナかけ」などに挑戦し、木とふれあう楽しさを満喫しました。

参加した親子からは、「今は家庭や学校でも鋸・金槌を使うことがないので、とても楽しかった。」「切った丸太、釘を打ったプランターや鉋をかけたまな板などを全部持って帰ることができてうれしい。」といった感想が聞かれ、たいへん好評でした。



【親子”愛の丸太切り”】

「林業教室実地研修会」の実施

東部地方振興事務所

【22日(月)】

林業教室受講者(石巻・登米管内計6名)を対象に、地域課題を学ぶ実地研修を実施しました。

午前はシカ対策として植栽木への単木保護実習(カバーがけ)を各自が体験し、更に測量の基本であるコンパス測量演習を行いました。午後は、造林・間伐等の基礎的な知識を座学で習得した後、研修生の希望に応じて会場となった津山町森林組合の共販所運営を視察するなど幅広い分野を研修しました。

研修生は各事業体の新規採用者であり、今後もこうした人材育成を支援します。



【コンパス測量演習風景】

「合板用原木に関する供給調整会議」 開催支援

東部地方振興事務所

【26日(金)】

宮城北部流域森林・林業活性化センター石巻支部が行う会議の開催に協力し、これまでの原木需給と今後の見通しについて協議しました。会議では、年度当初の計画に比べ会員供給が満たなかったり、素材入荷側での制限があったりと様々な状況が報告されましたが、現在は需要側の在庫が増加し、供給過多であることが示されました。

一方、他県で建設が進む大型製材工場の原木集荷が来年秋から開始されるとの報道もあることから、今後も地域の安定需給体制づく



【調整会議の様子】

りに取組むことが確認されました。

地域産材木製品のPR設置

東部地方振興事務所

【30日(火)】

石巻合同庁舎の来訪者に木材の魅力を広く普及するため、地域材のマガジンラック(パンフレット棚)2基を製作し、執務室(林業振興部)入口のカウンターに併設しました。

加工製作を地元家具店に委託し、石巻市産スギ材にクリア塗装を施したことで、明るい木目の風合いや質感がよく現れ、来訪者の目に止まる仕上がりとなりました。

今回の設置をきっかけに、庁舎内外の「木材映え」が推進されることを期待します。



【パンフレット棚設置様子】

「林業教室実地研修会」の開催

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【22日(月)】

石巻普及指導区と共同で、林業教室受講生6名を対象に実地研修を実施しました。

午前には、ニホンジカの被害防除対策として、単木防除資材の設置研修を行ったほか、ポケットコンパスを用いた森林測量研修を行いました。午後は、測量、造林、間伐、森林保護に関する座学を行うとともに、宮城県森林組合連合会の津山共販所を見学しました。

実務経験の浅い林業教室受講生にとって、普段の業務で経験できない獣害対策や森林測量について、現地研修を通して基礎的な技術の普及を図ることができたほか、今後の業務で必要となる造林・間伐等に係る基礎的な知識や木材共販所の役割、木材価格の動向等について理解してもらうことができました。



【ポケットコンパスを用いた森林測量研修】

林業現場におけるICT活用の紹介及びUAV操作体験会の実施

気仙沼地方振興事務所

【11日(木)】

気仙沼市において、コロナ禍で開催が見送られてきた「森森フェスタ」(NPO主催)が3年振りに開催され、活動支援を行いました。

当イベントは、食や林業に関する体験を通して山に触れる機会の創出を図るものとして開催されているものであり、当所では小型の撮影用ドローンから大型の測量用のドローンを3種類展示し、林業現場におけ



【ドローン操縦体験の様子】

るドローンの活用方法を説明したほか、大人から子供も含め約50名に操縦体験を実施しました。

今回の活動では、操作体験者から「山の管理のためにドローンで撮影(測量)してほしい」などの要望も聞かれ、森林林業技術のICT活用への関心を高めることができました。

きのこ生産者への燃油価格高騰対策支援

気仙沼地方振興事務所

【22日(月)】

昨今の燃油価格の高騰により、生産資材費や光熱費等の固定費の上昇に伴う経営状況悪化の影響を受けた管内きのこ生産者の経営安定化を支援するため、南三陸町の原木しいたけ生産者2名に要望を伺うとともに、書類作成の支援を行いました。

生産者からは、被覆資材導入のほか、固定費削減に資する省エネルギー化機器導入に関する支援要望がありましたので、見積書など申請に要する具体的な必要資料などについて助言を行いました。

今後も、生産者のニーズに合った各種補助事業等の支援を行い、安心・安全なきのこの安定供給体制が図られるよう取り組みを進めていきます。



【補助申請資料作成支援の様子】

ハタケシメジ簡易施設栽培マニュアルの普及

林業技術総合センター

【5日(金)・26日(金)】

当所の試験・研究課題であるハタケシメジ空調施設栽培品種「みやぎ LD2 号」の既存農業資材を用いた簡易施設栽培方法の試験結果に基づき「ハタケシメジ簡易施設栽培マニュアル」が取りまとめられたので、菌床生産・販売を担う関係団体及びハタケシメジの栽培に取り組んでいる生産者を訪問し、マニュアルを周知するとともに、これまでの栽培状況及び今後の生産計画等に関する情報収集を行いました。

生産者から『「みやぎ LD2 号」は食味等が良く需要があるので、今季も栽培を計画している』等の情報を得ることができました。

今後も当県特産品の普及に努めます。



【関係団体へのマニュアル説明状況】

緑の雇用3年目研修への支援

林業技術総合センター

【18日(木)】

9名の研修生を得た県林業労働力確保支援センターから標記研修の講師依頼があったので、フォレストワーカー研修テキストに沿って森林施業の体系及び森林整備の省力化・低コスト化作業に関する講義を支援しました。また、テキストの他、原価管理及び森林作業道作設手法について教示し、森林計画図から1小班群を選択し、3グループに分かれ事業利益を試算の上、代表発表いただくことで学習効果を高めることができました。

今後も林業従事者の育成を支援します。



【講義の様様】

緑の雇用2年目研修への支援

林業技術総合センター

【26日(金), 29日(月)】

13名の研修生を得た県林業労働力確保支援センターから標記研修の講師依頼があったので下記の講義を支援しました。

(26日(金):GPS測量)

午前中は、GPSの基礎知識、操作方法を説明の上、GPS測量を行い、パソコンを用いてデータを任意地図に表示した後、フリーソフトを用いて平面図を作成しました。午後は、ドローン操縦の講義と実技を実施しました。

(29日(月):リスクアセスメント)

リスク回避の基本は、コミュニケーションにあることを理解頂いた上で、互いの情報を会話で共有するための実技を行い、リスクアセスメント、掛かり木処理、伐木造材作業のDVDを視聴し、リスクアセスメント報告書の作成と発表、チェーンソー基本動作の確認と簡易担架の作成実技を行いました。

今後も林業従事者の育成を支援します。



【GPSデータの活用実技の状況】



【チェーンソーの基本動作の確認状況】